

第80回 簿記実務検定第 2 級試験問題

商業簿記

(制限時間 1 時間 30 分)

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	割 賦 売 掛 金
未 収 金	仮 払 法 人 税 等	備 品	備品減価償却累計額
支 払 手 形	未 払 法 人 税 等	社 債	資 本 金
繰 越 利 益 剰 余 金	売 上	受 取 利 息	固 定 資 産 売 却 益
広 告 料	租 税 公 課	社 債 利 息	固 定 資 産 売 却 損
法 人 税 等	支 店	本 店	損 益

- a. 奈良商店に商品 ¥2,520,000 を36か月の均等分割払いで売り渡していたが、本日、第6回目の割賦金 ¥70,000 を同店振り出しの小切手で受け取った。
- b. さきに、西北商店から商品代金として受け取っていた同店振り出し、当店あての約束手形 ¥400,000 について、支払期日の延期の申し出があり、これを承諾した。よって、新しい約束手形を受け取り、旧手形と交換した。なお、支払期日の延期にともなう利息 ¥2,000 は現金で受け取った。
- c. 大阪商事株式会社は、取得原価 ¥1,130,000 の備品を ¥300,000 で売却し、代金は月末に受け取ることにした。なお、この備品の売却時における帳簿価額は ¥339,000 であり、これまでの減価償却高は間接法で記帳している。
- d. 兵庫商会の本店は、広告料 ¥150,000 を現金で支払った。ただし、このうち ¥42,000 は支店の負担分である。(本店の仕訳)
- e. 滋賀産業株式会社は、決算の結果、当期純利益 ¥2,170,000 を計上した。
- f. 鳥取商事株式会社は、次の条件で発行している社債について、半年分の利息を小切手を振り出して支払った。

発行条件	額面総額 ¥50,000,000	払込金額	額面 ¥100 につき ¥98.40
	償還期限 10年	利 率	年1.8% 利 払 い 年2回

- g. 和歌山商事株式会社(決算年/回)は、決算にあたり、当期の法人税・住民税及び事業税の合計額 ¥1,957,000 を計上した。ただし、中間申告のさい ¥900,000 を納付している。

2

次の取引を特殊仕訳帳としての当座預金出納帳と売上帳に記入し、総勘定元帳と売掛金元帳・買掛金元帳に転記しなさい。

- ただし、i 総勘定元帳への転記は、特殊仕訳帳から直接おこなうこと。
 ii 特殊仕訳帳は、月末に締め切るものとする。
 iii すでに記入してある取引も転記すること。
 iv 総勘定元帳・売掛金元帳・買掛金元帳の記入は、日付と金額を示せばよい。
 v ほかに特殊仕訳帳として、現金出納帳と仕入帳を用いている。

取引

／月2／日 岡山商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

A 品 500個 @¥600 ¥300,000

23日 岡山商店に売り渡した上記商品のうちに品違いがあったので、次のとおり返品された。

A 品 20個 @¥600 ¥12,000

27日 広島商店に次の商品を売り渡し、代金は同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金とした。

B 品 350個 @¥700 ¥245,000

30日 島根商店に対する買掛金 ¥180,000 を小切手を振り出して支払った。

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 京都商店（個人企業）における本店・支店の損益計算書と未達事項によって、次の金額を計算しなさい。
 ただし、未達事項整理前の本店における支店勘定の残高は ¥764,000（借方）、支店における本店勘定の残高は ¥498,000（貸方）である。

- a. 支店勘定残高と本店勘定残高の一致額 b. 本支店合併後の仕入高
 c. 本支店合併後の当期純利益

本店 損益計算書			
平成○年／月／日から平成○年／2月3／日まで			
費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	330,000	売上高	6,240,000
仕入高	4,740,000	期末商品棚卸高	390,000
売上総利益	()		
	()		()
給料	1,080,000	売上総利益	1,560,000
旅費	116,000	受取手数料	31,000
減価償却費	75,000		
雑費	14,000		
当期純利益	306,000		
	1,591,000		1,591,000

支店 損益計算書			
平成○年／月／日から平成○年／2月3／日まで			
費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	160,000	売上高	2,400,000
仕入高	()	期末商品棚卸高	190,000
売上総利益	()		
	()		()
給料	516,000	売上総利益	480,000
旅費	87,000	受取手数料	27,000
減価償却費	60,000	当期純損失	()
雑費	12,000		
	()		()

未達事項

- ① 本店から支店に発送した商品 ¥94,000（原価）が、支店に未達である。
 ② 支店で本店の買掛金 ¥163,000 を支払ったが、この通知が本店に未達である。
 ③ 支店で本店の旅費 ¥17,000 を立て替え払いしたが、この通知が本店に未達である。
 ④ 本店で支店受取分の手数料 ¥8,000 を受け取ったが、この通知が支店に未達である。

- (2) 下記の略式の伝票（5月/8日）を集計したさいの仕訳集計表の（a）～（c）に入る金額を計算しなさい。ただし、次の取引について、必要な伝票に記入したうえで計算すること。なお、仕入・売上の各取引については、代金の決済条件にかかわらず、すべて、いったん掛け取引として処理する方法によっている。

取 引

5月/8日 山口商店から商品 ¥290,000 を仕入れ、代金のうち ¥200,000 は約束手形 #38を振り出して支払い、残額は現金で支払った。

入金伝票	
当座預金	275,000
売掛金	460,000
受取手数料	22,000
()	()

出金伝票	
買掛金	170,000
当座預金	300,000
消耗品費	135,000
()	()

売上传票	
岩国商店	376,000
防府商店	281,000
下関商店(値引)	6,000
宇部商店	489,000

仕入伝票	
長門商店	167,000
柳井商店	418,000
萩商店(戻し)	15,000
()	()

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
当座預金	84,000	売掛金	84,000
消耗品費	28,000	当座預金	28,000
当座預金	269,000	受取手形	269,000
受取手形	395,000	売掛金	395,000
買掛金	171,000	当座預金	171,000
()	()	()	()

仕 訳 集 計 表
平成○年5月/8日

借 方	元 丁	勘 定 科 目	元 丁	貸 方
		現 金		
		当 座 預 金		(a)
		受 取 手 形		
		売 掛 金		
		()		
(b)		買 掛 金		
		売 上		
		受 取 手 数 料		
		仕 入		
		消 耗 品 費		
(c)				(c)

- (3) 中国商店（個人企業）の下記の繰越試算表と資料によって、次の金額を計算しなさい。

a. 期首の負債総額

b. 期末の売掛金

繰 越 試 算 表

平成○年/2月3/日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
1,415,000	現 金	
()	売 掛 金	
()	繰 越 商 品	
600,000	備 品	
	買 掛 金	832,000
	借 入 金	700,000
	資 本 金	1,802,000
3,334,000		3,334,000

資 料

i 期 首 の 資 産

現 金	¥1,078,000
売 掛 金	892,000
商 品	540,000
備 品	750,000

ii 期間中の掛売上高 ¥8,760,000

iii 期間中の売掛金回収額 ¥8,913,000

iv 期間中の追加元入額 ¥ 70,000

v 期間中の引出金 ¥ 190,000

vi 当 期 純 利 益 ¥ 405,000

4

山陽商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）の総勘定元帳勘定残高と付記事項および決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

- (1) 総勘定元帳の損益勘定に必要な記入をおこないなさい。
- (2) 貸借対照表を完成しなさい。

元帳勘定残高

現 金	¥ 585,000	当 座 預 金	¥ 1,780,000	受 取 手 形	¥ 1,400,000
売 掛 金	1,760,000	貸 倒 引 当 金	19,000	有 価 証 券	1,530,000
繰 越 商 品	1,240,000	貸 付 金	1,500,000	備 品	3,600,000
備品減価償却累計額	900,000	支 払 手 形	1,340,000	買 掛 金	1,460,000
仮 受 金	160,000	従業員預り金	187,000	資 本 金	7,900,000
売 上	17,200,000	受 取 手 数 料	193,000	仕 入	12,540,000
給 料	2,328,000	支 払 家 賃	708,000	保 険 料	272,000
消 耗 品 費	79,000	雑 費	37,000		

付 記 事 項

- ① 仮受金 ¥160,000 は、尾道商店に対する売掛金の回収額であることが判明した。

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥1,370,000
- b. 貸 倒 見 積 高 受取手形と売掛金の期末残高に対し、それぞれ2%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 備品減価償却高 定率法による。ただし、毎期の償却率を25%とする。
- d. 有価証券評価高 売買を目的として保有する次の株式について、時価によって評価する。
福山商事株式会社 30株
帳簿価額 /株 ¥51,000 時 価 /株 ¥53,000
- e. 消耗品未使用高 ¥ 26,000
- f. 保 険 料 前 払 高 保険料のうち ¥234,000 は、本年3月/日からの/年分を支払ったものであり、前払高を次期に繰り延べる。
- g. 利 息 未 収 高 ¥ 14,000

第80回 簿記実務検定 2級 商業簿記 [答案用紙]

1	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		
g		

1 得点	2 得点	3 得点	4 得点	総得点
---------	---------	---------	---------	-----

試験場校	受験番号

[illegible]

帳 上 売

2

[illegible]

総勘定元帳

当座預金		2	売掛金		4
1/1 前期繰越	250,000		1/1 前期繰越	750,000	
買掛金		12	前受金		15
	1/1 前期繰越	953,000		1/1 前期繰越	70,000
売上		18	仕入		21

売掛金元帳

広島商店		1	岡山商店		2
1/1 前月繰越	230,000		1/1 前月繰越	380,000	

買掛金元帳

島根商店		1
	1/1 前月繰越	273,000

3

- (1)
- | | | | |
|---|----------------|---|--------------|
| a | 支店勘定残高との額 〃 | b | 本支店合併後の仕入高 〃 |
| c | 本支店合併後の当期純利益 〃 | | |
- (2)
- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| a | 〃 | b | 〃 | c | 〃 |
|---|---|---|---|---|---|
- (3)
- | | | | |
|---|-----------|---|----------|
| a | 期首の負債総額 〃 | b | 期末の売掛金 〃 |
|---|-----------|---|----------|

2

得点

3

得点

4

(1)

総勘定元帳

損

益

31

12/31 仕入	12/31 売上
〃 給料	〃 受取手数料
〃 ()	〃 ()
〃 ()	〃 ()
〃 支払家賃	
〃 保険料	
〃 消耗品費	
〃 雑費	
〃 ()	

(2)

山陽商店

貸借対照表

平成〇年/2月3日

資 産	金 額	負債および純資産	金 額
現 金		支払手形	
当座預金		買掛金	
受取手形 ()		()	
貸倒引当金 ()		資 本 金	
売 掛 金 ()		()	
貸倒引当金 ()			
有 価 証 券			
商 品			
()			
貸 付 金			
()			
()			
備 品 ()			
減価償却累計額 ()			

4
得点

借 方		貸 方	
a	現 金 70,000	割 賦 売 掛 金	70,000
b	受 取 手 形 400,000 2,000	受 取 手 形 受 取 利 息	400,000 2,000
c	備品減価償却累計額 未 収 金 固定資産売却損	備 品	1,130,000
d	広 告 料 支 店	現 金	150,000
e	損 益 2,170,000	繰越利益剰余金	2,170,000
f	社 債 利 息 450,000	当 座 預 金	450,000
g	法 人 税 等 1,957,000	仮払法人税等 未払法人税等	900,000 1,057,000

当 座 預 金 出 納 帳				2			
平成 〇年	勘定科目	摘 要	平 〇年	勘定科目	摘 要	平 〇年	勘定科目
	前ペーシから	売 掛 金	諸 口	前ペーシから	買 掛 金	諸 口	
1 27	売 上	広島商店	✓	245,000	/ / 6 仕 入	島根商店	✓
				30	買 掛 金	島根商店	買1
			630,000				500,000
31	売 掛 金	4	630,000	31	買 掛 金	12	500,000
〃	当座預金	2	1,155,000	〃	当座預金	2	890,000
	前月繰越	✓	250,000		次月繰越	✓	515,000
			1,405,000				1,405,000

売 上 帳				2			
平成 〇年	勘定科目	摘 要	平 〇年	売 掛 金	諸 口	平 〇年	勘定科目
/ / 9	前 受 金	広島商店	内 金	265,000	70,000		
	売 掛 金		掛 け	売1	290,000		
		C 品	900個 @¥400				
21	売 掛 金	岡山商店	掛 け	売2	300,000		
		A 品	500個 @¥600				
23	売 掛 金	岡山商店	掛け戻り	売2	12,000		
		A 品	20個 @¥600				
27	当 座 預 金	広島商店	小切手	✓			
		B 品	350個 @¥700				
					855,000		
31			売 掛 金	4			
〃			総売上高	18			
〃			売上戻り高	18/4			
			純売上高				
							1,254,000

総勘定元帳			
当座預金		売掛金	
1/1 前期繰越	1/31	1/1 前期繰越	1/31
250,000	890,000	750,000	630,000
31 1,155,000	31 855,000	12,000	
買掛金		前受金	
1/31 500,000	1/1 前期繰越 953,000	1/19 70,000	1/1 前期繰越 70,000
売 上		仕 入	
1/31 12,000	1/31 1,266,000	18	21
広島商店		岡山商店	
1/1 前期繰越 230,000	1/1 前期繰越 380,000	1/23 12,000	
19 290,000	21 300,000		

買掛金元帳	
1/30	1/1 前期繰越
180,000	273,000

3

(1)		(2)		(3)	
a	支店勘定残高との 一本店勘定致	584,000	b	本支店合併後の 仕入	6,784,000
c	本支店合併後の 当期純利益	129,000			
a	474,000	b	646,000	c	4,641,000
a	期首の負債総額	1,743,000	b	期末の売掛金	739,000

4			
(1)			
総勘定元帳		損益	
12/31 仕	入	12/31 売	上
給料	2,328,000	受取手数料	193,000
〃 (貸倒引当金繰入)	41,000	〃 (受取利息)	14,000
〃 (減価償却費)	675,000	〃 (有価証券評価益)	60,000
〃 支払家賃	708,000		
〃 保険料	233,000		
〃 消耗品費	53,000		
〃 雑費	37,000		
〃 (資本金)	982,000		
	17,467,000		17,467,000

(貸倒引当金繰入は、貸倒償却でもよい。)

(2)		貸借対照表	
山陽商店		平成〇年〇月〇日	
資	産	金	額
現金	585,000	支払手形	1,340,000
当座預金	1,780,000	買掛金	1,460,000
受取手形 (1,400,000)		(従業員預り金)	187,000
貸倒引当金 (28,000)	1,372,000	資本金	7,900,000
売掛金 (1,600,000)		(当期純利益)	982,000
貸倒引当金 (32,000)	1,568,000		
有価証券	1,590,000		
商 品	1,370,000		
(消耗品)	26,000		
貸付金	1,500,000		
(前払保険料)	39,000		
(未収利息)	14,000		
備 品 (3,600,000)			
減価償却累計額 (1,575,000)	2,025,000		
	11,869,000		11,869,000